



“いま、和賀心のとき”

フォーラムたより

2017
10月号
No. 50



首都圏布教 御礼祈願祭

金

光教首都圏フォーラム(和泉正一議長)では、教団独立記念祭の前日に当たる6月10日、金光北ウイングやつなみ南ホール(岡山県浅口市金光町)で、第28回首都圏布教御礼祈願祭(以下御礼祈願祭)を仕え、162人が参拝した。

この祭典は、天地金乃神様、生神金光大神様、歴代金光様、そして首都圏布教に尽力された直信先覚先師先人ら362柱のご霊神様に、今日までの首都圏布教の歩みの御礼と、「世を救い、人を助け、道を伝える」首都圏布教の展開を願って仕えられ、明年(平成30年)には首都圏布教130年のお年柄を迎える。

祭

典に先立ち、首都圏布教の歩みが映像で紹介された後、群馬・埼玉教会連合会長の松本光明先生(埼玉県浦和教会会長)を祭主に祭典が仕えられた。

首都圏布教祈願詞奉唱の後、「祈りのノート」「奉献金」奉納に続いて、祭主が祭詞を奏上。直信先覚先師達の神様に向かう揺るぎない信念と功績をたたえた上で、難儀に満つる世界に神と人との取次に立つ金光大神の道の確かなる展開を祈願し、人間疎外にむしばまれている今の現代社会にあつて、首都圏の信奉者一同が本部広前の御取次を仰ぎながら、天地書附をわが身に体して、尊き教祖生

神金光大神の東方伝道への切なる祈りをわが祈りと頂き、直信先覚先師達の道開きのみ心を受け現せるように願った。さらに、東日本大震災、熊本地震をはじめとする、自然災害、世界各地の戦争、紛争にて命を落とした御霊達の道立てと、被災者、戦災者の助かりと立ち行き、復興と平和実現の上りに祈りをささげ、玉串を供えた。

祭

次に教話講師をはじめ、各代表が玉串を供え、「いま日はのぼる」を参拝者全員で斉唱した。祭典後、鈴木一嘉先生(東京都小金井教会長)が「振り返ってみれば……」と題して教話。昭和63年に首都圏布教百年の記念の祭典として、第一回目となる御礼祈願祭が東光園で仕えられ、その参拝時のエピソードや先発隊としてご用をされた経験を振り返りながら、次のように話した。

御

礼祈願祭の諸準備を中心的に担っていた、当時のフォーラム事務局長の長谷川親男先生(東京都麹町教会)が、平成13年に亡くなられた後、事前の準備が整わなくなり、祭典が仕えられなかった時期もあった。しかし、平成17年に首都圏フォーラム内に壮年教師会が発足し、改めてこの祭典を「首都圏の首都圏による 首都圏のための祭典」にしたいとの願いから、祭典を再度お仕えることになり、今日まで続いてきている。

私は壮年教師会の退会とともに、祭典準備に当たる先発隊のご用からも卒業させて頂いた。同時に教会事情から毎月第2日曜に

仕えていた月例祭を6月だけ前日の土曜日に私がお仕えし、翌日の教団独立記念祭に参拝させてもらっていた。

ところが、一昨年あたりから、心の中にこれでもいいのだろうか、という思いが胸にわき起こるようになり、御礼祈願祭は大切なお祭りとして頂き、月例祭の日程を繰り上げ、昨年、およそ三年ぶりに御礼祈願祭参拝のおかげを頂いた。

私たちがご用していた頃は、東京の青年教師が中心で、他の連合会の先生方は数名であった。ところが、今では各連合会の若い先生方が一生懸命に祭典準備をされ、更には同世代の安西宏太先生(千葉県木更津南教会)も教話講師を務められた。しかも先生は、お祭りの準備をし、祭典を頂かれ、更に教話もされ、後片付けをして直会に行かれる。まるで自分の在籍教会の祭典のように御用される姿に感動を覚え、負けてられないという思いがした。これまでは御礼祈願祭を一つの「行事」とみていた

教

話後、お道筋に移動し、教主金光様のお退けをお見送りし、神露酒造で祝宴が開かれ、受褒教師、新任教師が紹介された。新任教師の菅原安喜子先生(千葉県野田市教会)は、「教師不在の教会でしたが、一念発起し、教師にならせて頂きました。教師不在の教会に一人でも教師が生まれることを願って、ここから神様の御用に立たせて頂きたい」と抱負を語った。

おめでとうございます

●四十年受褒教師

- 金光貴志子師(千葉県船橋教会)
- 宇都木あけみ師(東京都芝教会)
- 西村紀子師(東京都本郷教会)
- 前島純一師(東京都銀座教会)
- 小林文子師(東京都目黒教会)
- 金子テツ子師(東京都荒川教会)
- 福田光一師(神奈川県神奈川教会)
- 奥川美智雄師(神奈川県平塚教会)

●新任教師

- 菅原安喜子師(千葉県野田市教会)
- 豊永晃太郎師(東京都芝教会)

講話をもとに相互研修



茨城・栃木教会連合会(清水日出男会長)では、7月8日(土)、小山市生涯学習センターにおいて、教師信徒合同研修会を開催し、34名が参加した。

今回の研修は、「神人あいよかけよの生活運動」の推進を願って開催され、嶋田洋東京センター次長を講師にお招きした。「道は人が開け」という講題で、嶋田先生の通ってこられた様々なご体験をもとに、これからの金光教に必要なことをお話し頂いた。

質疑応答の後、写真撮影、昼食を頂き、午後からは5班に分かれて班別懇談を行った。今年は男性班、女性班と分かれ、忌憚のない意見が多く出されて、予定時間では足りない様子であった。

全体懇談では各班から質疑応答の時間内では聞ききれなかった講師への質疑を出し合い、講師と共に議論を深めた。今後の連合会の方針についても、情熱をもって道を伝えていけるような活動となるようにと確認し合い、充実感と笑顔の中で散会した。

介護とリメイクをテーマに女性の集いを開催

神奈川・山梨教会連合会(山田信二会長)では7月5日(水)、神奈川教会で女性のつどいを開催しました。

1992年に始まったこのつどいは、連合会内の教会を回って開催され、学習と交流の場となつています。信徒部の活動ですが、女性教師も熱心に参加しています。

今回は、「介護」と「着物のリメイク」がテーマ。鎌倉教会の信徒・古賀さやかさんと吉岡裕子さんのお話を聞き懇談しました。参加者は28名(うち6名が女性教師)。



古賀さやかさん

神奈川・山梨教会連合会(山田信二会長)では7月5日(水)、神奈川教会で女性のつどいを開催しました。1992年に始まったこのつどいは、連合会内の教会を回って開催され、学習と交流の場となつています。信徒部の活動ですが、女性教師も熱心に参加しています。



吉岡裕子さん

吉岡さんは、着ることを単なるおしゃれの一つでなく、自己実現と考えているとのこと。着物教室で着物を洋服に仕立て直すことを体験して以来気に入って、長く続けているそうです。10年以上にわたって作ってこられた作品の数々を見せながら、エピソードや旅の思い出を語りました。

お年柄奉迎の準備着々

東京都教会連合会(和泉正一会長)では、来年お迎えする首都圏布教130年のお年柄奉迎の準備を着々と進めています。

主行事となる記念の東京集會については、「よろこび集めつなげようー子・孫へ、世の人々へー」

Syutoken Fukyo 130

仰体験発表、初代白神新一郎先生のご教蹟をたたえる朗読劇、アトラクションなどを企画

「よろこびツイート」「よろこびカード」などを使って、「よろこび」を東京集會で集約したいと考えています。このことにつきましましては、首都圏の信奉者の皆様にご協力を仰ぐことになるかと存じますので、その節はどうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、初代白神先生のお道開きのご偉業について、より深くわかつていただくため、去る9月1日に『金光教大阪教会初代白神新一郎先生「首都圏布教の原点をいただく」(とれんぷらざ)第38号』を発行いたしました。多くの方にお読みいただいで、明年のお年柄を意義深くお迎えするための糧にさせていただければ幸いです。

昆虫を通していのちの大切さを学ぶ

群馬・埼玉教会連合会(松本光明会長)は7月30日、群馬県桐生市の「ぐんま昆虫の森」で第17回群埼レクリエーションプラザを開催し、大人から子どもまで44名が参加した。

日本最大級のチョウ「オオゴマダラ」を間近で観察できるようになっている。

参加者は5グループに分かれて、昆虫観察館内を出題されたクイズを解きながら巡り、続いて、オオゴマダラをはじめとする様々なチョウが舞う、ふれあい温室を見学した。亜熱帯の植物が生い茂り、滝が流れる温室内には、色鮮やかなチョウが舞い交い、その可憐な姿に参加者たちは声を上げて喜んでいました。



その後、子ども達は虫取り網を手に、芝生広場やバツタの原っぱで昆虫探し。昼食後は、明治初期の養蚕農家に移築したかやぶき民家を見学し、竹馬や竹ぼっくりなどの昔遊びで楽しんだ。

同施設は「昆虫」をテーマにした体験型教育施設で、広大な敷地内に雑木林や棚田、畑、小川などの里山の原風景が再現され、亜熱帯の植物が生い茂る温室内で、21名が参加。内5名が少年少女であった。当日は天候に恵まれ、夏の暑い日差しの中、大自然を満喫した。

例年通り一日目はキャンプ場近くにある大滝で水遊び。川の水の冷たさを肌で実感しつつ、子ども達はいつまでも夢中で遊んでいた。その後、竹を使ったの工作と軍手ばさみを作成。大人たちにも好評であった。刃物に慣れていない子ども達も、はじめは使い方に不安があったが、おじいさんとも

いえる方たちから丁寧に教えるを受け、みるみるうちに上達した。夕食はバーベキュー。お肉もた



大自然の中で貴重な体験

千葉県教会連合会(安西宏太会長)は7月29日(土)〜30日(日)の両日、「清和県民の森」を会場に第8回少年少女の集いを開催